



潮来市前川あやめ園の花菖蒲 (平江さん撮影)

第二期パートナー活動に思う (私と環境活動)

二年前、春浅く吐く息が白い日、まだ工事が残るセンターの建物を前にこれから始まるボランティア活動に期待と不安が交錯する中、私の第二の人生が始まりました。

オープンには少し早い研修会では、センター概要や接客マナー等を80名近い新人パートナーの皆さんと、お互い勝手の違いにまごつきながらも新人社員時のような緊張感で臨みました。

この二年の間、展示解説勉強と実践、畑違いの水質分析補佐、そして見習い講師、自然観察会での補助業務、定点観測による植物、魚類の調査そして、各種イベントへの参加などを通じ、子供達を含む数多くの人達と接することができ、そこで学んだ知識、スキルはとても新鮮で、環境にやさしく私にとって貴重な財産となっています。

今年平成19年はパートナー活動も第二期となり、多くの新しいパートナーの皆さんが加わりました。そして、活動体制も新たに整備され、自主性ある活動実践に向けた第一歩が期待をこめて踏み出されました。

明るく、楽しく、そして少しでも霞ヶ浦の環境改善にお役に立てるよう皆で頑張りましょう。

(編集責任者：尾形)

私と環境

パートナーとして活動したおかげで環境に対する見方が大変身近な問題として捉えられるようになった。昔は町内の掃除や草刈は妻に任せっぱなしであまり参加した記憶がないが、今は年3回(5月 環境美化行動の日、11月 年末清掃大作戦、3月 霞ヶ浦・北浦地域清掃大作戦)の清掃は勿論、年3回行われる草刈にも積極的に参加するようになった。また、それにできるだけ生活の中で省エネを実践するようになっている。

我々の住んでいる地球号が水質や大気汚染、ゴミ問題で今悲鳴を上げている。少しでもきれいな地球にするために”Thinking Globally Act Locally (地球規模で考え足元から行動せよ) “の言葉通り、先ず私たちの生活の中でできることから実践していくことが大切だと思う。

それにしてもいつもゴミの多さに驚くばかりだ。一人ひとりが環境に関心を深めればゴミの量も減っていくことだろう。関心を持ってもらうように私として少しでもお手伝いできればいいと思っている。

(平江)

夏に思う

♪ 夏が来れば思い出す・・・というわけでもありませんが6月初めに尾瀬へ行ってきました。水芭蕉やリュウキンカが見ごろの時期で、例年のことながら中高年のツアー客を中心に多くの人で賑わっています。



近年、尾瀬ヶ原では殆どゴミを見かけなくなったように感じられます。

上高地でも昔よりずっときれいになり、訪れる人のマナーも良くなったと言われます。

富士山はゴミの山？

さて、霞ヶ浦とはいえば、こんなところに何故と思われる大型ゴミや様々なゴミが結構目立ちます。

ゴミ持ち帰り運動が各地で行われています、その成果が上がっている地域もあるようですが、霞ヶ浦ではまだまだの感じます。自然はもろくて壊れやすい。そんな自然を守るために市民運動・ボランティア活動が行われていますが、最後は一人ひとりのモラルの問題になるのでしょうか。小さなことから気をつけていきたいと思えます。

(安川)

どこへ引っ越したの「コジュケイ」

今や家の周りは緑一色に覆われむせ返る程だ。33年前に今の地（玉里）に移り住んだが、当時はもっと木や藪が茂っていた。しかし人が住み始めると共に、徐々にではあるが、木々は切られ藪も整備され、周囲は明るく見通しも良くなり快適な住環境に変ってきたが、自然の面積は少なくなってきた。当時は藪から突然目の前に飛び出してきたり、夜明けと共にうるさいくらいに「チョットコイ チョットコイ」と鳴いていたコジュケイの声は今ほとんど聞かれなくなってしまった。



我々の生活環境は改善されたが、いつのまにか生き物にとっての生活環境はこわされ、居心地が悪くなってしまったに違いない。後から来た我々が先住民を追いやってしまったのだ。家の近くではセミも少なくなった。ホタルは全く見られなくなってしまった。

こうした現象はあちこちで起きている筈だ。本当に残念だ。時間はかかることだが、皆で知恵を出し、少しでも昔の自然をとりもどしたいものだ。（大島）

愛犬「おりょう」の糞

我が家には真っ白な柴犬のメスがいます。現役引退後古河のブリーダーから購入しました。今年の6月で満3才になります。名前は「りょう」。坂本竜馬を崇拜する次男の命名です。女房は「お父さんのペットちゃん」と呼んでいます。私の育て方が悪かった、という意味を含んでいます。ようやく“お座り”と“お手”はできますが、その他は何の芸もできません。女房が仕事から帰ってきても“わん”と吼えて歓迎することはありません。それが気に食わないらしいのです。

しかし、箱入り娘に相応しい美德を備えています。朝夕二回の散歩に粗相をすることはまずありません。オシッコはします。糞は朝の散歩の直前、多分4時ごろ1階の運動場（「りょう」の犬舎は2階建て）で済ますのです。つまり散歩道の草藪や道路の真ん中に放置するような不躰なことはしないのです。したがって朝夕の散歩にビニール袋やシャベルを持ち歩くような不恰好なことはしていません。フンバツで環境保全を第一とする「おりょう」に万歳！！。（稲葉）

映画「米」を見て感じたこと

昨年1月、センターで開催された「霞ヶ浦帆引き船祭り」と、今年3月10日に開かれた「第15回霞ヶ浦入門講座」の車中での2回、私は今村 正監督の映画「米」を鑑賞する機会に恵まれました。

この作品は、ご存知の方も多いと思いますが、昭和32年頃の日本が未だ高度経済成長期に入る前のもので、霞ヶ浦のほとりを舞台に半農半漁の貧しい暮らしを描いた社会派ドラマです。丁度、私共60才代後半が青少年時代の時代を描いたものです。

あれから50年、映画の中の現実に共感を憶え、日本は本当に豊かになったなあ・・・というのが、この映画をみての実感でありました。

しかし、心安らぐ豊かな社会になったかという、そうでもなさそうです。ゴルフコンペの賞品に幹事は一番頭を悩ますようで、喜んでもらえる賞品を選んだものが、あまり喜んでもらえず、結局は賞品はすべて商品券という全く味気ないものになってしまうことも多くあると聞きます。

あの小川は、今はみるかげもないが、俺たちの小さい時はよく泳いだり。魚をとったりしたものだという話をよくききます。青少年時代の懐かしい思い出までも、この豊かな社会は踏みにじってきたようです。あふれるばかりの物も結構だが、魚を追いかけるきれいな川、星の輝く澄んだ空気、これを取り戻してこそ本当の意味での心安らぐ豊かな社会だと思う。

（浅野）



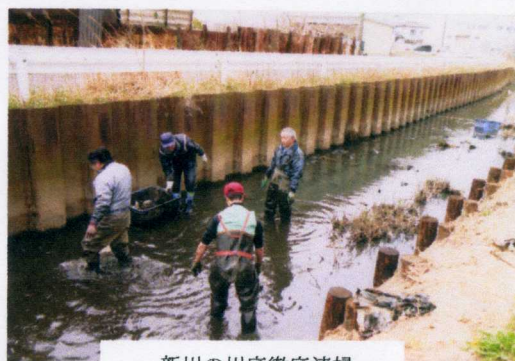
私と環境 : 流入河川の浄化活動

『新川グランドワーク (GW) への参加』を！

今年3月“泳げる霞ヶ浦”“遊べる霞ヶ浦”を命題に15年後の水質COD5mg/l₅₀₀台前半を目標とする「第5期霞ヶ浦湖沼水質保全計画」が策定されました。

これまで4期20年、立派な水質保全計画が作られています、下水道事業など国・県の一部行政機関の努力はあるものの、地域全体としてどれほどの行動がなされたか！、地域住民にどれほど認知されているか疑問です。

霞ヶ浦の汚れは、その大部分が湖面積の約10倍ある流域から流入河川等を通じて懸濁物質が流入していると云っても過言ではないでしょう。この事から霞ヶ浦の水質浄化は、流入河川での浄化活動が不可欠の要件と思われれます。



新川の川底徹底清掃

(社) 霞ヶ浦市民協会では数年前から、土浦市内を流



作業後の餅つきイベント

れる1級河川「新川」の指定区間最上流部にある「新川浄化実験場」をフィールドに流入河川浄化適正技術の実験・展示、霞ヶ浦水質浄化のPRや隔月に新川上・中流部の清掃活動を行ってきました。昨年3月実験場沿いの新川護岸約150mが整備されたことから、川底を徹底的に清掃し大量のゴミを回収した結果、川底のきれいな砂地が復元した。そこに実験場で植栽した“ササバモ”という「水中藻」を移植したところこれが根付き、今年は大量のコイ、フナののっこみがみられました。

平成19年度から、これらの成果を踏まえ新川上流部を「水を綺麗にする里川モデルエリア」として育てる「グランドワーク新川」の活動を推進しています。GWとはさまざまな人が協力して、地域を良くしていく活動です。

この趣旨に賛同いただくパートナーの方の参加を期待しています。

(有吉)

パートナー担当 井上秀毅さんの自己紹介

今年度よりパートナー活動の窓口を担当させていただきます井上です。

こう見えても？フィンランドが大好きで英語もフィンランド語もまったく話せないくせに、毎年1人で訪れています。各地の図書館を見学したり、世界最北のマクドナルドに行ったりと、冒険心はつきません。

「今年も早くフィンランドに帰りたい」と七夕の短冊に書かせて頂きました。

パートナー担当としてまだまだ未熟者ですが、皆様からのアドバイス等頂ければ幸いです。

怪我なく皆様とこの1年がんばれたらと思います。



企画・交流課

香澄俳壇

懐かしや コジエケイ脈やか 里の春
ホタルとぶ 田んぼは今や まぼろしか
ゆつたりと 揺れる水面に アサザ咲く

大島

(川柳)

霞ヶ浦 ミネラル水の 水がめか
レジ袋 集めて再生 マイバック
エルニーニョ 私の小遣い ラニーニャ
農作物 肥料へらし 私よとる

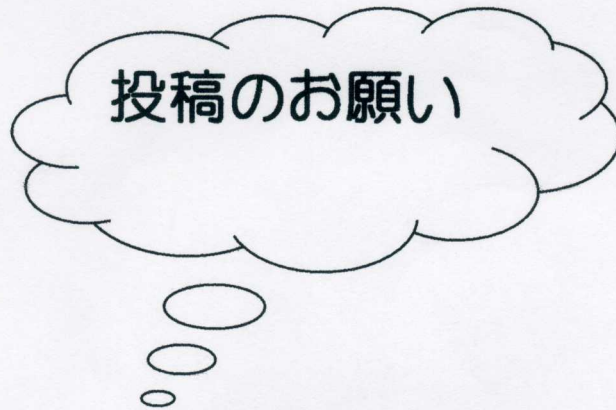
栗原

青虫の 食欲さそう 無農薬
小学生 水を分析 親目覚め

尾形

霞ヶ浦(うみ)再生 地道な活動 積み重ね
できるなら アサガをベッドに 昼寝する

大島



『パートナー香澄』の原稿を募集しています。特にテーマは設けません。
パートナーご自身のプロフィールとセンターでの活動体験記や身の回りの
話題など何でも結構です。写真の添付も可です。

次号は10月末発行予定で、原稿締め切りは9月20日です。
パートナー室のパートナー香澄メールボックスにお入れ下さい。

編集委員

尾形 孝彦
浅野 明宏
有吉 潔
大島 寿夫
栗原 知彦
平江 俊之
安川 敏行
稲葉 寛